市政を問う 一般質問

議員が市政全般について、その事務の執行状況や将来の方針等の報告・説明を求めたり質問したりすることをいいます。　（※質問者順に掲載）



後藤　彰（新風会）

花火大会における交通・駐車対策

質問　**花火大会当日、片岡地区や乗附地区等の会場周辺の迷惑路上駐車の実態や地域住民への影響等をどう把握し、対策に反映しているのか。**

答弁　高崎まつり実行委員会への連絡や関係機関からの報告により把握している。駐車が多い箇所へ事前にパイロンや注意喚起を行う掲示物等を設置し、さらに当日の警備員等による巡回、声かけなどを行い、現状でできる限りの対策を講じている。

質問　**花火大会終了後の一斉帰宅による交通渋滞や周辺道路への車両集中についての対策は。**

答弁　公共交通機関の利用や会場から離れた駐車場の利用を促す等の周知をしているが、効果的な対策までに至っていない。来場者の安全確保や周辺環境への影響を考慮し、他の花火大会等も参考にしながら、安全かつスムーズな分散帰宅に向けた効果的な方法を研究していく。



宮原田　綾香（たかさき未来）

保育所等における医療的ケア児への支援体制
中・高生の学習環境の整備

質問　**公立保育所に看護師を配置し、医療的ケア児の受け入れ体制を整えたモデル園を設置すべきと考えるが、本市の考えは。**

答弁　医療的ケア児を長時間預かる体制の整備は、保護者の就労と子育ての両立支援に重要な視点と考える。長時間の受け入れを安全に行うためには、看護師の継続的な確保や施設整備等、多くの課題があるため、慎重に検討を進めたい。

質問　**中・高生の学習場所が不足しており、施設整備も不十分と考える。現代の学び方に合わせ、中央図書館をはじめ公共施設にＷｉ－Ｆｉを設置すべきと考えるが、市の方針は。**

答弁　図書館において、Ｗｉ－Ｆｉ整備が求められていることは承知している。費用の問題やゲーム、動画視聴を目的とする利用者の増加により、学習環境への悪化が懸念されるため、課題を踏まえた上で研究していきたい。



谷川　留美子（超党派の会）

勤労青少年ホームの
市民交流拠点としての有効活用

質問　**利用者の交流拠点として勤労青少年ホームのホールを改修し、紙コップ式ドリンクの自動販売機等を設置し、漫画や趣味の本などをそろえたブックカフェ的な空間を整備できないか。**

答弁　現在、ロビーには休息できるよう本棚や椅子を備え、自動販売機も設置し、ホールもクラブ活動等で多くの利用者がいる。スペースに限りがあるため改修は難しいが、憩える環境づくりに向け、既存の設備や運用面で工夫したい。

質問　**勤労青少年支援、市民の交流、不登校支援という複合的な役割を踏まえ、高崎市勤労青少年ホームという古くて堅苦しい名称や施設の位置付けを再検討することへの見解は。**

答弁　施設利用者や地域の方にも名称は親しまれ定着しており、名称変更の提案等はない。今後もさまざまな意見等を参考にし、利用者の交流の場となるよう適切な施設運営に努めたい。



新保　克佳（公明党）

健全財政の維持と市民サービスの継続
有害鳥獣対策

質問　**事業の見直しや優先順位をどのように考え、過度な負担を将来世代に残さないという財政運営をどう実現していくのか。**

答弁　事業の見直しは重要性や緊急性等の観点から取り組み、一般的な事務経費等も積極的な経費節減に努めている。また、将来にわたり大きな財政負担が生じないよう、市債発行は交付税措置される有利な起債を選択するほか、真に発行が必要かをよく見極めて発行額の抑制を行い、引き続き健全な財政運営に努めていく。

質問　**野生動物に対する正しい知識や遭遇した時の行動等を定期的に広報高崎等を通じて周知することが必要と考えるが、市の見解は。**

答弁　目撃情報があった地域に町内会の回覧を活用して注意を呼びかけている場合もあるが、改めて広報高崎等を通じて、広く市民に周知することも有効な方法であると考えている。

まめ知識　**●マルチモーダル輸送**　新幹線や貨物列車、地域公共交通、トラックなどの複数の異なる交通輸送手段を組み合わせた、途絶えのない大量輸送網。



三井　暢秀（市民クラブ）

相次ぐ震災、豪雨災害等の教訓を本市の
危機管理に直結させる避難所とインフラ防災対策

質問　**マルチモーダル輸送の防災計画の策定について、大量輸送のメリットや課題への見解は。**

答弁　マルチモーダル輸送は災害時に市民の生命と生活を守る観点から、有効な手法と考えるが、複数の輸送手段への積み替えによるコストの高騰など、一つの自治体では調整や解決に課題があると認識している。課題の解消や実現性について、これまでの防災施策と同様に国や県に対し必要に応じた働きかけを行っていきたい。

質問　**医療的ケアが必要な方々への電源確保、福祉避難所への実効性のある移送や受け入れ体制の現状と課題について、本市の見解は。**

答弁　自宅以外へ避難する場合、医療機器などの持ち出しや電源が必要であり、停電時の電源確保も課題となるため、災害時応援協定を締結している福祉事業者等と連携し、情報共有しながら他市の事例なども参考に研究していきたい。



高橋　淳（新風会）

地域力と防災対応力を支える
持続可能な公共事業

質問　**生活道路の修繕や水路整備、防災・安全対策など約５億円の補正予算を計上した背景と、市内小規模建設事業者への効果は。また、地域インフラや防災対策としての位置付けは。**

答弁　身近な道路や水路の整備、水害対策を迅速に行うとともに、厳しい経営環境にある市内小規模建設事業者の受注機会を創出する。生活道路の舗装補修や水路、水門の整備などを行い、市民生活の安全向上と事業者支援に寄与する。

質問　**公共事業は、地域のインフラ整備や維持管理だけでなく、地元の技術や人材、企業を維持し、災害時の対応力を支える基盤でもある。今後の公共事業をどのように進めていくのか。**

答弁　必要な公共事業を計画的かつ継続的に実施し、地域経済と雇用を守るとともに、災害対応力を平時から確保し、持続可能な地域社会の形成と災害に強いまちづくりを推進していく。



新倉　哲郎（超党派の会）

学校給食時の環境

質問　**現在、小・中学校で給食時の机の配置や給食時間の過ごし方はどのような状況か。**

答弁　コロナ禍では、一人一人が前を向き、児童・生徒の間に一定の距離を確保する等の措置を講じ、食事中の会話を控える黙食等の対策を行っていたが、現在はグループ形式に戻した学校が約２割、前向きでの食事を継続している学校が約８割となっている。

質問　**学校給食時の環境について、児童・生徒や保護者を対象とした実態調査を実施し、その結果を踏まえながら、より良い給食環境について検証、改善していく考えはあるのか。**

答弁　実態調査は、まずは各学校が自校の状況を踏まえ、生の声を丁寧に把握し、より良い給食時間の環境づくりを進めることが大切である。教育委員会が持つ各学校の情報を共有する等、相談対応や助言に努めていきたい。



柄沢　高男（無所属）

今年の熱中症対策
本市の感染症対策

質問　**国においては、熱中症対策実行計画の策定や、労働安全衛生規則の改正による職場における熱中症対策の強化が進められているが、本市ではどのような取り組みをしたのか。**

答弁　熱中症警戒アラート等の発令時に公式ライン等を通じて迅速に注意喚起を行っている。また中小企業等への支援として、令和２年度より職場環境改善事業補助金を通じて職場における空調設備等の導入支援を進め、令和８年度からは特別枠を設け、農業従事者を対象としたファン付き作業服の導入に対する補助も開始した。

質問　**本市における感染症対策の概要は。**

答弁　感染症対策は多角的なアプローチを重層的に展開していくことが不可欠であると認識している。本市では、主に予防接種、発生動向の把握と疫学調査、普及啓発、そして危機管理体制の確保の４点を柱として推進している。